

患者さんにとっての安全・安心・最高の薬物治療のための医薬品情報を考える

日時：平成 29 年 2 月 4 日（土） 14：00～16：00（開場：13：30）

会場：せんだいメディアテーク 7 階 スタジオシアター（仙台市青葉区春日町 2-1）

プログラム

14：00～14：25 「～提案～ 近未来の医薬品情報の一つのカタチ」
「医薬品情報の認識に関するアンケート調査 結果報告」
橋本 貴尚（研究班代表 仙台オープン病院薬剤部 日本病院薬剤師会医薬情報委員会・委員）

14：25～15：25 取り組み事例の報告（各 10～12 分）
「健康食品の情報に関する取り組みについて～健康食品情報にだまされないために～」
戸田 紘子 先生（NPO 法人 ふあるま・ねっと・みやぎ）

「小さな DI から大きな効果」
佐藤 昌博 先生（塩竈市立病院 薬剤部）

「薬局で行う腎機能評価」
渡邊 愛 先生（つばさ薬局 多賀城店）

「抗凝固薬適正使用のための情報共有」
新沼 佑美（研究班メンバー 広南病院 薬剤部）

「がん専門病院での医薬品情報業務の取り組み」
江刺 晶央 先生（宮城県立がんセンター 薬剤部/治験・臨床研究管理室）

「仙台市薬剤師会の『ハートヘルス プラザ』について」
藤田 尚宏 先生（株式会社オオノ ひかり薬局 福室）

15：25～15：40 「今後のビジョンについて」
菊池 大輔（研究班副代表 東北医科薬科大学病院 薬剤部）

15：40～ 来場者を対象にアンケート調査
（*発表順は変更になることがあります。）

参加費： 無料

共催： 宮城県病院薬剤師会

後援： 一般社団法人 日本病院薬剤師会 一般社団法人 日本医薬品情報学会 一般社団法人 宮城県薬剤師会

一般社団法人 仙台市薬剤師会

研修認定： 日病薬病院薬学認定（申請中） 日本薬剤師研修センター（申請中）

問い合わせ先： 仙台市宮城野区鶴ヶ谷 5 丁目 22-1 仙台オープン病院薬剤部内 橋本貴尚宛

電話：022-252-1111（内線 8887） FAX：022-252-0454

本研修会の趣旨 ～ 近未来の医薬品情報の一つのカタチ ～

薬剤師に課せられた最も重要な役割は、医薬品など（ここでは健康食品も含みます）の情報を検証して活用し、患者さんの薬物治療に貢献することにあります。これまで様々な職種の薬剤師の話を聞いてきて、それぞれが「薬剤師にはもっとできることがあるはずだ」と高い志をお持ちでした。一方で、職種が異なると同じ薬剤師でも考え方や進め方が異なっている、という印象を持ちました。

しかしながら、患者さんから見れば、薬剤師はどこで働いていようとも「ただ一つの薬剤師」です。例えば、入院中に受けた病院薬剤師の話と、退院後に受けた薬局薬剤師の話が異なるようなことがあれば、困るのは患者さんです。健康食品の情報が不十分であれば、服用薬との相互作用等が心配されます。

そこで、「色んな考え方もつ薬剤師が集まって情報共有してみよう」というのが本研修会の趣旨です。本研修会に気軽にご参加頂き、最後のアンケートに感じたこと・考えたことなどをご記入下さい。演者と参加者の双方から得た知見が、今後の薬剤師の情報活用、そして情報共有のあり方に必要不可欠な示唆を与えてくれると思います。それが「近未来の医薬品情報の一つのカタチ」につながっていくのです。

最後に、宮城県病院薬剤師会（県病薬）並びに仙台市薬剤師会（市薬）からは「医薬品情報の認識と活用に関するアンケート調査」のご協力を頂きました。又、県病薬、市薬並びに宮城県薬剤師会の各会員施設からは事例紹介をして頂きます。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

平成 28 年度日本医薬品情報学会課題研究班 代表 橋本 貴尚